

第三百三十三回 青葉会

平成二十五年十二月十一日(木) 年忘れ句会

鈴木演芸場(昼の部) 見物↓丸紅にて句会(談話室)

〈出席者〉 今井紀久男 小川恭延 小西弘子 朱牟田恵洲(句会のみ) 豊田ゆたか 中野一灯

西澤國護(寄席のみ) 山内天牛

〈投句〉 土谷堂哉 古田昇

《互選句》

四点 泣く程に人笑わせる師走寄席

三遊亭歌之介

三点 冬鷗舟屋の軒の日干し蛸

奥丹後の伊根

(鯨などでなく蛸が効いている)

二年の瀬の鐘は上野か寄席太鼓

小円歌の三味線漫談

二点 出囃子に名人偲ぶ暮の寄席

老骨は睡魔に弱し師走寄席

鈴本へ公孫樹落葉を踏み急ぐ

寄席覗く焚火にあたつてゆくやうに

(中七の表現が抜群)

三味の音や奴踊りに年惜しむ

歳末の犬もせわしげ寄席幟

炉話の継ぎ穂に鳴れり虎落笛

岡倉天心の六角堂

天心の海鳴り止まず鮫鱈鍋

職退(ひ)きしにはか農夫の頬かむり

一点 二人居の用足るだけの年用意

師走寄席売れつ子やつと楽屋入り

年の瀬や義士外伝に酔ひ深む

鬘貞なり祝儀弾まん暮の寄席

菊之丞都知事をちくりと師走寄席

寄席に行くことまず決まる師走哉

診断を聞く鼻風邪の主治医より

雪晴れや父帰還せし舞鶴港

出囃子や笑つて喜寿の年送る

断捨離の古着を選びぬ年の暮

釜泥棒家まで盗む暮の寄席

暮の寄席鞋(こはぜ)を金貨と間違へり

掛取りをまんまと騙す暮の寄席

「NHKラジオ」西村和子選

堂哉 (弘)  
一灯 (紀)  
昇 (恭)  
天牛 (紀)  
全 (恭)  
全 (灯)

ゆたか (紀・天)  
全 (恭・灯)  
一灯 (恭・弘)

全 (弘・惠)  
全 (惠・天)  
昇 (惠・天)  
全 (灯)  
全 (ゆ)

全 (灯)  
全 (恭)  
全 (灯)

●次回青葉会

正月五日(木) 吉例初芝居総見

一月二十三日(木) 庄司さん囲む会

初句会

▲当季雑詠五句 投句二句

二月二十七日(木)

新橋演舞場(昼の部)

午後四時〜 バンケットルーム(丸紅)

午後六時〜 バンケットルーム(全)

午後六時〜九時 (丸紅談話室)

以上 文責 紀久男